



左から水原先生、山本所長、岡野先生、早瀬先生

埼玉PDNセミナーは理事・セミナー世話人である水原章浩先生を中心に、すでに4箇所でのセミナーと1回の市民公開講座が開催されている。

埼玉県は都市部から郊外まで、人口・地形・産業・交通網そしてPEGへの理解も格差が大きい。

今回、越谷地区での初のセミナーでは、越谷市医師会の後援、同医師会在宅部門ご担当の岡野昌彦先生(岡野クリニック院長)からのご挨拶を頂いた。またこのセミナー開催に当たって越谷市医師会立訪問看護ステーションのスタッフが県東部地区の訪問看護ステーションにアンケートを行い、埼玉県訪問看護ステーション連絡協議会副会長でもある山本美紀子所長が「胃瘻についての地域の現状」と題して報告された(図)。

31ステーションからの回答があり、それらのステーションが訪問している胃瘻造設者の合計数は163名。胃瘻造設者にとつて、定期的に必要なカテーテル交換を行う医師が造設医とも在宅主治医とも異なることは珍しいことではない。だからこそ、カテーテル情報を含む患者情報の交換・共有がなされなければ、安心・安全な在宅医療は行えない。

そこで越谷地区では、医師会立訪問看護ステーションが中心となり地域連携システム構築のための活動を始めていたのだが、関係者の中でも胃瘻に対する認識の格差が大きく、共に学ぶセミナー開催の必要性を痛感したという。

東鷲宮病院副院長、水原章浩先生は、いつもの滑らかトリークでラップ療法の正しい適用と具体的なケアの方法についてお話された。

久喜メディカルクリニック院長、早瀬仁滋先生は久喜市の開業医として、周辺の訪問看護ステーションや医療機関、介護老人保健施設などとの連携を呼びかけているが、実際には胃瘻やTPN、癌末期の緩和ケア等、在宅での医療が必要な方を受け入れない訪問看護ステーションが多いことを嘆いておられた。

同時に、在宅医療は、まず家族およびかかわるスタッフすべてが集まって、そのゴールを定めること、そのためにのおの

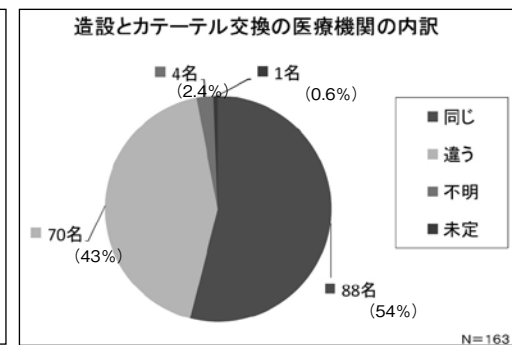
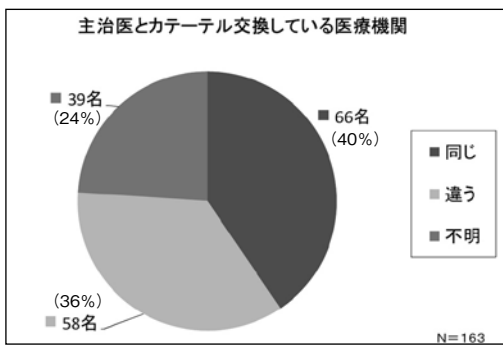
の専門性を最大限活かして患者・家族を支えていくこと、そのためにも職種間の連携は大切であることなどを協議された。一言で在宅医療といっても、癌末期の方の在宅医療と、脳梗塞など脳血管障害後遺症を抱えて退院してこられた在宅医療とは、おのずと医療・看護・介護の内容や期間も異なる。だから



埼玉 私たちの地区でもPDNセミナーを！

越谷市医師会・同医師会立訪問看護ステーションの企画で

5/10 越谷



開催日時	開催内容	会場	参加人数
4.12	第3回城北PDNセミナー	ハイライブラザ板橋	76名
	講演内容への質問から日々のケアの相談まで、講師と参加者が一体となった熱心なディスカッションに、司会者も燃える		
4.26	埼玉PDN市民公開講座	大宮法科大学院大学	220名
	(2面参照)		
4.26	第3回岡山PDNセミナー	岡山コンベンションセンター	180名
	三原先生のランチョンセミナーで、「再び食べるためのPEG」「口腔ケアの必要性」を参加者は再認識		
5.10	第5回埼玉PDNセミナー(越谷地区)	越谷ベルヴィ ギャザホール	110名
	(上記参照)		
5.10	第13回群馬PDNセミナー(藤岡地区)	藤岡市鬼石保険福祉センター	61名
	実技セミナーに参加して、「今日学んだ人」は「明日教える人」に		
5.16	第3回函館PDNセミナー	株式会社モロオ函館支店会議室	144名
	奥尻島や青森からの参加も。地域連携の進んでいる函館ならではの盛り上がり		
5.17	PDN 胃ろうセミナー(下関)	下関厚生病院付設健康管理センター4F 大ホール	121名
	百聞は一見にしかず、理解を助ける実技セミナー。見て触れて実際にやってみて初めて気づくことも。		
5.31	第2回広島PDNセミナー	RCC文化センター	195名
	前回に引き続き、展示メーカー各社によるプレゼンコーナーで、参加者は豊富な製品情報を入手		
5.31	第8回鹿児島PDNセミナー in 大口	大口元気こころ館	37名
	新設されたカテーテル交換手技料にもふれ、安全な交換についての認識が高まる		

PDNセミナー開催実績(2008年4月1日～5月31日)
★ホームページもご覧下さい

からこそ、スタッフ間の共通認識が不可欠といえよう。

一訪問ナースの希望したセミナーが開催実現するまでのプロセスの中で、地域の実情や、新たに協力していただけたような医療機関・ドクターの情報を共有することができた。今後の同地区での企画・活動が期待される。

